

予 算 審 査 特 別 委 員 会 記 録

<総括審査>

開催日時 平成26年10月1日(水) 13:02~15:25

開催場所 第1委員会室

出席委員 9名

安井 宏一 委員長

中村 昭 副委員長

田中 惟允 委員

森山 賀文 委員

宮本 次郎 委員

上田 悟 委員

荻田 義雄 委員

高柳 忠夫 委員

山本 進章 委員

欠席委員 なし

出席理事者 荒井 知事

奥田 副知事

松谷 副知事

前田 副知事

浪越 総務部長

長岡 危機管理監

野村 地域振興部長

辻本 南部東部振興監

福井 観光局長

江南 健康福祉部長

上山 こども・女性局長

渡辺 医療政策部長

影山 くらし創造部長兼景観・環境局長

中 産業・雇用振興部長

福谷 農林部長

加藤 県土マネジメント部長

林 まちづくり推進局長

久保田 水道局長

吉田 教育長

橋本 警察本部長

ほか、関係職員

傍聴者 なし

議事 9月定例県議会提出議案について

<会議の経過>

○安井委員長 ただいまから会議を再開いたします。

日程に従い、総括審査を行います。

それでは、質疑等があればご発言を願います。

○山本委員 地域トレーニングセンターとアリーナ整備についてお聞きします。

予算審査特別委員会の部局別審査で質問したのですけれども、これは聞きますと余りまだ具体性がない。まだ構想の段階で、まだ業者も決まっておらず、ことしの予算はまだ執行されていないとのことですが、この地域トレーニングセンターにしてもアリーナの整備にしても、これからの奈良県にとっては大変重要な施策であり、ぜひとも必要な施設ではないかと思っております。

地域トレーニングセンターは、東京オリンピックが開催される2020年に向かって、トップアスリートの育成、そこには間に合わないかもしれませんが、奈良県のスポーツ、武道、そういうものに関しての施設で大規模なものはないので、ぜひともつくっていただきたい。橿原市は武道館も、競技場もあります。陸上競技場、野球場、弓道場、テニスコート、いろいろな面でスポーツの拠点といってもいいのではないかとこの施設がたくさんありますので、地域トレーニングセンターへの知事の思い、そして、いよいよとなったときにどういう地域性でつくろうというようなコンセンサスを持っておられるのかも聞きさせていただきたい。

全国のアリーナの資料を見ていたら、たくさんのアリーナが最近ではできているのですけれども、収容人員が5,000～6,000人から2万人ぐらいのアリーナがあり、多目的に使っているアリーナもありますし、専門的なアイススケートだけのアリーナなどもあるのですけれども、知事はどういうアリーナを思い描いておられるのか。また、規模につ

いて、その中でどのようなものをしていただければいいのか。例えば奈良県はプロ野球ができるスタジアムがないのですけれども、当初スタジアムとアリーナを並行で、どちらがいいのかという検討もされたように聞き及んでいます。私は野球が大好きで、奈良県でプロ野球ができる球場がぜひとも欲しいという思いも持っていました。例えば橿原市の地元の方からは佐藤薬品スタジアムをプロ野球ができるような球場に広げてほしいという要望もかなりあるのですが、橿原神宮の森やその周辺のもので拡張ができず、今はイースタン・リーグが、2軍の野球を年に1度か2度開催されているぐらいの状態ですけれども、そういう野球場ではなくアリーナにされるとおっしゃる知事はどのようなイメージをされておられるのか。

特に立地ですけれども、リニア中央新幹線ができたとき、近くにアリーナをつくろうかという意図もあるようにも聞き及んでいます。南部、東部地域の活性化という中で、農産物や地域特産の名物や地元の材料を生かしたまちおこし、活性化も、この間のシンポジウムのように、天川村洞川や下北山村のようなすばらしい取り組みをされており、そして地域活性化をされています。関西から、全国各地から1万人、2万人と集まるようなコンサートなり、イベントで人が寄ってくることによって地域の活性化につながるということであれば、南部地域を候補地として検討もしていただきたいと考えるのですけれども、知事の考えをお聞きします。

○荒井知事 トレーニングセンター、アリーナ、スタジアム整備構想の考え方というご質問だと思いますが、スポーツ振興を奈良県で進めたいというのが基本にあります。スポーツ振興の目的は健康増進という意味で、いつでもどこでも誰もがということもありますが、運動という面もありますので、スポーツができる環境を整えたい。小学校の芝生化なども、若いころから体力を造成しようという思いで提案してきましたが、なかなか進みませんが、一方、トップアスリートを実際に目の前で見ると刺激を受ける度合いが全然違ふと。トップアスリートに来てもらう、それを見たり、一緒に教えてもらう。あるいはそれを育てる環境にあるというのがもう一つの筋で、トップアスリートが行き来するようなスポーツ環境がイメージにあります。奈良マラソンでも有森裕子さんが来るだけで、トップアスリートが来る刺激というのは想像以上に大きいものがあることをイベントを通じて実感しているのです。そのような機会、場を提供したい。

とりわけ、トップアスリートの養成や貢献する目的がトレーニングセンターにありますけれども、ナショナルトレーニングセンターが東京都板橋区にあり、見学に2度ほど行き

ました。それと話も聞きましたが、大変種目も多いしハイレベルで、特徴はスポーツ医科学の研究です。医学を伴ったトレーニングの研究をするのと記録分析をする設備が整っている施設が印象的で、これは余りないのですけれど、そのおかげでいろいろな種目が日本でよくなってきたと。もう一つは、日本の水泳が伸びたというのですけれども、スイムピアの開設式に水泳連盟の副会長が来て、日本の水泳がどうして伸びたかと尋ねてみました。アメリカは若いころから水泳をさせていたので、まねすればできるのではないかというのを見事成功したと。こういう体験を耳に挟みまして、できれば医科学の研究を伴ったスポーツトレーニングセンターを地域でもできないかというのがあの構想です。

ナショナルトレーニングセンターは国が1,000億円もかけて東京都板橋区につくりました。最初は西のナショナルトレーニングセンターらしいものを、東京オリンピックに向けて充実をしようとした。しかし、全面的にカバーしているわけでもありませんし、狭いので、その連携のもとにトレーニングセンターが小さくてもいいからできないかと。種目も絞る必要があるという構想で、10月7日に開催するJOCの人たちを入れた奈良県トレーニングセンター構想検討委員会で、意見を賜る会でコネクションができてきた。構想は今そういうことですが、トップアスリートを育てる刺激が県民にも裨益するということです。東京オリンピックに地域の貢献、地域創生の貢献ができて、トップアスリートが東京に行かないで地域にとどまるといったことも、あるいは他の地域の若者がとどまってトレーニングセンターで学習する、滞在が長くなるといったことを考えています。

トレーニングセンターは便利なところでないといけませんので、山の中にあるトレーニングセンターというのはイメージにそぐわないのですけれども、地方の山の中のスポーツ振興というのは別の観点から、例えば高校総体の奈良県でやる6種目を、全部南部地域でしようとした。南部地域でスポーツイベントをするということは、大きな施設整備はそぐわないと思いますが、それが定着してスポーツらしくという手が各地であります。スキーのスポーツ合宿なりいろいろな種目のスポーツ合宿を夏休みなどに来ていただけるというのがありますし、南部地域で強い学校があると、そこに宿泊施設などがあれば学生は来やすい。それは南部地域に適していると思います。

トレーニングセンターやアリーナは便利のいい都市型の施設ではないかと思えます。トレーニングセンターの構想は医科学と連携しなくてはいけないのと、橿原市には県立医科大学もあり、スポーツ医学が熱心ですが、ほかにもありますので、3つほど実は内々適地としてはあるように思っています。都市型で便利なところで、その宿泊施設などが周りに

あるというようなところですよ。それとスイムピアでシンガポール代表が合宿してくれるというようなことがあります。奈良県は名を売るのが下手ですけども、だんだんそういう活動が定着して、奈良県のトレーニング機能は地域としては充実しているというふうに、大変ニッチな分野ですので、余り突っ込む地域はまだないし、田舎でも多少できるけれど、余り田舎ではできないといったような性格ですが、適地はよく客観的に勉強して、政治的に決めるわけにはいきませんので、勉強して決めたい。できれば、そういう構想に予算も要りますが、ぜひお願いしたいと思います。

それから、アリーナも実は都市型で、スポーツだけではなく大きな演奏会もしますので、山の上につくってもなかなか人が入らない。明日香村長がきのう来られました。石舞台の前の演奏で4,000人集まったとのことですよ。春日野園地のミュージックフェストの演奏も8,000人集まりました。野外だと大きなスペースがありますし、広場で前庭ごと屋根があればそのぐらい囲えばできる。ただ、囲い型ですと維持が大変ですよ。年間数億円の赤字が出るようなものであると困ると。アリーナで見学に行ってもらったのは仙台市のアリーナ、これは民間が経営しています。ただ、駅前のいいところで立地されているのです。駅前のアリーナは民間も経営の触手が出るというのがアリーナ構想の性格づけであります。

それから、先ほど言いましたように運営が大事ですよ。設備費は、地域の元気臨時交付金というのが昨年度の補正予算で出まして、いろいろな施設、県立大学の施設や桜井市のオーベルジュ棟の施設で利用させてもらっていますので、これは100%国費でつくっている施設ですよ。その面はいいのですけれど、運営をきちんとするというのは、地方の運営者の責任になると思います。アリーナは、公設よりも民設民営のほうがいいのではないかと考えています。スポーツトレーニングセンターは公設公営に近い、民間のいろいろな団体と連携した運営形態だと思っています。場所については、東京オリンピックに向けてきちんと進むような構想を仕立てなければいけない。その上でまた予算をお願いすることになればありがたい。よろしくお願いしたいと思う次第ですよ。

○山本委員 お聞きして大体のイメージはつかめました。アリーナに関しては、駅のそばといいますか、人が集まりやすいところで、南のほうではずれているかと、知事の構想の中にはそんな気配を感じましたけれども、トレーニングセンターは3つの候補地の中に、橿原市はうってつけだと思います。まだまだ先だと思いますけれども、今の知事のご説明でしたら、橿原市であれば2番手の都会ですので、ぜひ頭の中に入れていただけたらいい

と思います。

○荒井知事 3つつくると言ったわけではなく、1つつくって、3つの候補が今、頭の中で絞っているということです。

○山本委員 それは私もよくわかっています。3つつくる中の1つと言っているわけではなくて、1つつくる中の3つの地域にあったらいいという思いですので、どうかその点、ぜひと思います。

トレーニングセンターにも期待しておきたいと思います。よろしくお願いします。

○高柳委員 子どもの貧困について、改めて質問したいと思っています。国で大綱ができて、新聞紙上では理念で終わるという厳しい論調も含めてあります。福祉を担当してきた職員から見ても、国は一步踏み込んでくれたのか、変えてくれているけれど使い勝手が悪いなどということも含めて、各都道府県が対応していかないといけないことだと思っています。

代表質問では、基本計画をつくっていくという答弁をいただきました。一番大きなポイントは国が全国統一の貧困率を出すだけではなくて、奈良県が全国的なレベルでどの位置にあるのか。相対的貧困率と子どもの貧困率が奈良県の特徴として導き出すことが、その後の施策を具体的に点検もできるし、進行管理もできる。大綱で言っている23項目の指標も含めて総合的に判断すれば、よりの確に重要な施策からできるので、その問題は外すことができないと思います。

そういう意味で、改めて本気度というのですか、ほかの都道府県に比べて、この問題については最初に私が質問したときからきちんと向かい合っていると思っていますので、ぜひともいい答弁をしていただきたいと思います。

もう一つは、教育委員会の話だと思うのですが、知事に聞いてほしいのです。というのは、代表質問で、中退率の不本意な数字が出てきたわけです。クーラーを設置している高校14校では0.32%、していないところは4.11%の高校生が中退しているという現実が出てきたと。それは、意図しなくて出てきたのではなく、教育界にいる人から言えば、PTA主導でクーラーの設置をすればその結果は出てくるということも含めて見切り発車をしてしまったと思います。

高校生をめぐる受験戦争が激化しているし、親から見れば学ぶ環境をよくしたいという思いは当然あります。他府県と比べてもそういう状況で迫られていたと思います。そういう結果が出てきたことに関しては、早くそのことに関して向かい合わないといけない。そ

のことを教育委員会に言えば、今年度中に全体計画を出すべく最大の努力をするとおっしゃいます。大和郡山市のスィムピアにしても、PFIなどさまざまなやり方がある中で、PFIを売りに来ているところがあるのです。大きな市場ですから。整理すべきところは政治判断として、緊急度を要する学校からPFI、私はPFIはあまり好きではないですが、4年前から民主党が言っていますので、優先順位をつけたらいいという話が進んでいるのではないかと思います。今の固定した環境をそのまま続ければ、すごく悪い意味を持つ。PTAが施工してきたが、今年度、来年度は予定があるのですかと聞いたら、もうないですと言っているわけです。今年度でPTAが設置するところは終わってしまって、来年度からないのだと。しばらく固定化すると。教育予算が少ない中で、限られた財源の中でやりくりするのは大変だと思いますけれども、腹をくくって予算措置すべきではないかと言いました。貧困というよりも、その実態を踏まえての質問です。

次にエネルギービジョンです。3年でエネルギービジョンをうたうということはすごく問題だと思います。私は環境問題に関してずっとかかわってきました。エネルギービジョンというのはもっと夢や深みのある話だと思っていたのですけれども、奈良県エネルギービジョンの目的をこの質問の前に再確認したのです。そうしたら、本当にワンポイントなのです。電力不足に備えてとあるだけで、地球環境やCO₂の問題は書かれていないのです。エネルギービジョンという限りにおいては、CO₂の排出問題や地球環境のことも含んで奈良県環境総合計画と連動した形で出てくると思っていました。環境総合計画の中ではおおざっぱにしか書いていないので、この中にもっと詳しく、3年だけでなく5年の中長期のことも含めて書かなければならないと思っていましたが、書いていなかった。これをもう一度作り直すときには、中長期の環境総合計画と連動するような形にしないといけないという思いの質問です。以上です。

○荒井知事 3つのご質問です。最初の2つは関連していると思いますが、委員は、ずっと子どもの貧困の課題を取り上げてこられました。取り上げられる課題は制度的な課題が多かったと思いますので、大概フォローしている記憶はあるのですが。

○高柳委員 わかっています。

○荒井知事 視点はよくわかります。子どもの貧困が、以前よりも大きな課題として捉えられるようになってきたことは個人的にはうれしく思っています。というのは、成長とともに格差が世界中に出ていますので、実は中東やヨーロッパ、アメリカなどで一番の問題だと聞くわけです。そういう深刻さからすると日本はまだ少ないと思いますけれども、グ

ローバル化の中で、しわ寄せとして子どもが対象になっているというのは私は正当な認識だと思います。多かれ少なかれは別にして深刻な問題です。その中で、実は子どもが貧困ではなくて親が貧困なわけであります。

貧困な親を持った子ども問題ということで、児童虐待があつたりいろいろな問題を発生させます。貧困家族の問題と捉えるべきではないかと思ひます。

委員が総合的に見なくてははいけないという中で、貧困家族の問題として捉えたいと思ひます。子どもの貧困という切り口の言葉でももちろん入れるわけですが、子どもの顔を見ても栄養不足だとかいろいろな貧困の結果が出るのですけれど、その責任は子どもから発生してゐるわけではないので、それを社会問題として捉えています。これは国が大きく捉える中で地域も大きく捉えて、その問題意識が先進的になるべきというのは心がけている点です。子どもの貧困という切り口から、格差の中の家族の貧困、奈良県の位置づけと。今までの統計では大体極端に悪かつたりよかつたりするのが奈良県ですが、子どもの貧困は、奈良県がすごく極端だというエビデンスはまだないように思ひますけれど、調べてみます。まだ十分調べていないということもあります。その中で、その深刻度や目標感を位置づけて、総合的な施策を提示して、委員との議論に供する材料にしたいと思ひます。

子どもの貧困の大きな課題は、子どもがDVを受けたり、罪もない子どもが命を落としたりという、現象的なものもありますが、子どもの貧困が継承されて育ちが悪いと。教育が十分受けられない結果になって、教育が将来をつくることがどの国でも希望でありますけれども、その希望の道がないがために学習意欲が低くなって非行に走つたりするというパターンが実際にあります。先ほど中退率と言われましたが、学習意欲率、あるいは将来への希望が自分なりにあれば学習意欲、学びの姿勢が強くなると思ひます。それをどのように将来への希望につなぎとめてもらうかというのが今、世界の課題だと思ひます。

最近、テレビで見たのですが、アメリカは格差がひどくなって、都市の貧困家族の子どもは本当に悲惨で、その貧困家族から町に放り出された子どもを集めてバイオリンを教える教育活動が放映されておりました。バイオリンを弾くとバイオリンは脳と、手の感覚と耳の感覚と目の感覚の3つを使う。若年でそうすると、ミエリン化、ミエリネーションと書いておりましたが、それが大学進学率をその地域はすごく上げたという、中退率と逆の報告がありました。それに注目してミエリン化を奈良県でできないものかということをお、就学前バイオリン教育ということになるのですけれども、県立医科大学に早速聞きました。脳の発達は、医学的には実証されていないのだけれどもという返事でありましたけれども、

社会的には部分的に実証された結果がありますので、子どもの貧困が育ちを阻害しないようにという意味で、ミエリン化の実験をしてみたいと思っています。もし予算が出てくれば民主党も賛成していただけるようお願いし、そういう項目が入っていると賛成していただく率がふえるのではないかと思います。

エアコンの設置が子どもの貧困対策に効くかどうかというのは、効くかもしれないとは思いますが、どんな効果があるのかをもう少し聞き取りしたいと思っています。来年度予算でその方向性を持ち込みたいと思います。

クーラーを順次つけるという方法もあるのですが、聞くところによると、クーラーが大事なのは勉強、机に向かって本を読んだりするときに汗をかかないか、ぼーっとしないかという類いの勉強環境の整備ということで、小・中学生はむしろ体力やコミュニケーションということで、もっと運動場へ出て芝生で遊んでほしいと言いたいのです。楽器を弾いて、芝生で遊んで、ごろごろするというのが小学校低学年の教育活動かと思うのですが、だんだん本を読むようになって字を書くようになって、パソコンを打つようになり、教室で静かにするとクーラーも要ると想像するのです。すると教育環境の整備として中学、高校でよりニーズが高いと思うのです。もう少し聞き取ったり勉強しないといけない点だと思います。効果があれば1台1台、あるいは1校1校つけるよりも、まとまって買ったほうが安いのではないかと思います。安ければ白物家電を景気対策で買って、ついでのような効果があれば、そういうものと抱き合わせというのも地方創生のアイデアの一つになる。昔は自動車の税金をまけて買おうということがあったぐらいですから、そういうアイデアも委員とのやりとりで今思いついたのですが、そのようなことも視野に入れて、エアコンの課題を来年度予算要求に向けて、知恵を絞らせていただけたらと答弁したいと思います。

それから、エネルギービジョンですけれども、奈良県のエネルギー事情はエネルギー政策が全くなかったわけなので、節電の要請があってエネルギービジョンというものをつくらうと。ビジョンは長期的という意味もありますけれども、奈良県は輪郭がそもそもない県です。自給率は2割程度で、依存率は極端に高く、関西電力のエリアの中では5%のシェアしか占めていません。シェアが少ないのに、自給率が2割ということは、外からの送電が多いということです。福井県からの原子力発電による送電が奈良県にも入ってきて、それが途切れると計画停電になるということになります。この依存率を変えて自給率を100%にできるかということ、幾らビジョンで書いても難しいと思います。こういうことが

最初の検討で出てきました。

だから、できることは何か。ビジョンというものの具体的な話ばかりではなくて、私が指示した結果として、具体的なことを積み上げないとエネルギー政策は奈良県ではできないということです。小水力発電、木質バイオマス発電、太陽光発電など、小さな発電能力を積み重ねると。太陽光発電も全国のランクの中で中位からやや下でしかできない。というのは、大きな場所がないから、外に売るほどの発電量はないし、地域で何とか賄える集落がもしかしたらあるかもしれないといったような、とてもサイズの小さいことです。原発代替や火力代替などという大きなことは正直言える能力はないので、書いてもしょうがないと言っただけの話です。しかし、エネルギー全体のビジョンという場合にはそういうことも視野に入れてというのは当然あると思います。奈良県のエネルギーの供給能力の実情を考えたところから出発したビジョンですので、ビジョンというのにビジョンらしくないというならば、名前を変えて、エネルギーの具体的な取り組みとかに変えたいと思いますが、もしその名前がふさわしくないということがありましたら、ただそれは表題だけのことで現実はそのような事情にあると思っております。

○高柳委員 子どもの貧困なりエアコンの設置のことにってはありがとうございます。予算化に努力するというので、期待します。貧困対策については、貧困率を出すのは難しいかもしれませんが、奈良県が全国に比べてどうなのか。日本の場合は総体的な貧困率よりも子どもの貧困率が高くなる原因や、子どもの貧困率が高い具体的な理由を地方から国へ発信していかないと、国も変わらないと思いますので、計画を立てるときに、奈良県の特色を生かした計画を立ててほしいと思います。改めてエアコンのことにってはありがとうございます。

もう一つ、エネルギービジョンのことです。COP3のころから環境問題に関わっていたので、そことエネルギービジョンがどう結びつくのかが見えていなかったのです。環境総合計画を見ても、さらっと流して、どこで受け皿をつくっているのか、中長期の見直しをエネルギービジョンに本来入れるべきだろうと思っていたので、ずっと問題提起をしていました。具体的な取組も含めてつくっていただきたいと思い、以上で終えておきます。

○宮本委員 2点質問したいと思います。

その質問の前に、先ほどの高柳委員の質問の中で、エアコンの問題について検討やいろいろな聞き取りもしていただいているとのことで心強く思っているのですが、1点だけ紹

介をしたいのが、熱中症の児童や生徒が出ている数をお聞きしたときに中学生が一番多かったのです。このことも一つ念頭に置いて、検討していただければと申し添えておきたいと思います。

質問に入りますが、1点目は、平成28年度に開校するなら食と農の魅力創造国際大学校についてです。これは、現在の農業大学校における教育課程を再編してアグリマネジメント学科とすることとあわせて、一流シェフを養成するフードクリエイティブ学科を新たに設置するものですが、農業大学校の目的を見ますと、学校案内に、就農意欲の高い者に対し農業経営及び農業技術等に関する実践的な能力を習得させると明記されていました。すなわち県農業の後継者を広く育成することがこの農業大学校の目的であり、これを保障するのが県政の役割だと理解しています。

しかし、今回のシェフ養成ということでは、フードクリエイティブ学科の整備、実践オーベルジュ棟の建設、そして今回の補正予算で示されている生徒1人当たり1台のキッチンを整備するとのことで、総額で15億円の整備という巨額になるわけです。そして、このフードクリエイティブ学科設置にあたって視察調査などで参考にされた学校が、世界一の料理学校、カリナリー・インスティテュート・オブ・アメリカということです。これは料理専門の教育機関としては世界唯一の4年制学位を取得できる寄宿舎を備えた学校ということで、約3,000人の学生が学んでおり、今回県が整備する予定のフードクリエイティブ学科とは規模がかけ離れているのではないかというイメージを持った次第です。

そういうことも踏まえた上でお聞きしたいと思っているのが、フードクリエイティブ学科に約15億円、アグリマネジメント学科の移転整備を合わせると、総額50億円程度の整備費となるのですが、こういった事業が県政課題の優先順位と照らして妥当なのかという点です。また、先ほど述べました農業後継者育成という県の農業大学校の役割を考えたときに、一流シェフの養成というものが県行政の役割から逸脱しているのではないかという思いを強く持つわけですが、その点についての知事のお考えをお聞きしたいと思います。

もう一つは、若草山の移動支援施設の問題です。これも本会議での質疑もあったところです。7月末に開催された奈良公園地区整備検討委員会でモノレール案から電気バス案に変更されて、今後検討していくことと認識しています。この検討委員会の中で、多くの委員が述べられた固定物、構造物はいかなるものかという意見の背景にどういったものがあるのかと。要するに、モノレール案から電気バス案に検討内容を変更する一番の理由とも

言えるのは、検討委員会で、多くの委員が構造物はいかがなものかと述べたことであり、この背景に迫ることが今後のバス案の検討の上でも非常に大事になってくるのではないかと思います。この予算審査特別委員会の部局別審査の中で幾つか議論しました。

例えば県が平成13年4月に定めた奈良県風致保全方針で、原則的に現況を凍結的に保存すると定めていることや、古都保存法に基づく総理府告示である奈良市歴史的風土保存計画で、若草山等の丘陵とその稜線における建築物その他工作物の新築と土地形質の変更、木竹の伐採等の規制に重点を置くものとするという方針が定められていることも再度確認をした上で、やはりこの若草山という地域が古都保存法など国内法で厳格に規制された区域であることがバックにあるので、多くの委員が構造物はいかがなものかと述べたと認識しているのです。検討委員会で出された意見の背景に何があるのかということも共通認識として持たないと、バス案を検討する際にまた同じことを繰り返すことになりはしないかと思います。その点を踏まえて、何も設置しないという選択肢があってもしかるべきではないかという思いを持ちますので、その点で知事のお考えをお聞きしたいと思います。以上です。

○荒井知事 2つのご質問で、最初は桜井市安倍の大変意欲的なプロジェクトに対する批判的なご質問でした。

農業大学卒業後どのくらい就農されているかご存じでしょうか。農業大学卒業生はほとんど農業に就労しないのが実態です。農業に関心を持ってご質問していただくのは歓迎ですが、それを破らないといけないという思いがスタートで、農業大学は今のままだとはいけないということを共通の認識でお願いしたいのです。

奈良県の農業は、437億円しか産出額がありません。全国で下から3番目です。東京都と大阪府が下にいるだけです。神奈川県は産出額は805億円ですが、奈良県と耕地面積も農家数も同じです。なぜそんなに差があるのか。それは農業はもうからないという先入観があったり、楽な水田の米作りが多かったりして、農業就業者がいないのです。農業就業者が農業大学を出ても普通大学に行ってしまうというのが実態です。だから、農業大学が要らないのではないかとと言われても委員の立場ならおかしくないような学校になっているのです。それを共通認識としてスタートで申しました。それを何とかしようと。農業はどのようにしたら生き残れるだろうかというのが奈良県の課題です。生産をふやして、それを売れるようにする。農業のブランド化ですが、食との連携、つまりレストランとの連携と食品加工との連携を産業農業という産業興しのテーマに上げ

ていますが、大きな課題だと思っております。

農と食を連携させるということで、昨日、奈良県へそのコラボするシェフに来ていただいたのですが、日本で有名な山形県のシェフです。山形県の田舎でアル・ケッチャーノというレストランを長年して、自分でも農場を経営されて、周りで食材を栽培して、非常にヘルシーで今の日本に合ったフランス料理をつくっておられる奥田さんというシェフが奈良県まで来て展示をしていただいているのですが、それは一つのモデルです。それは、わざわざ、そういうレストランがあれば、山形県の田舎まで行かれるのです。その山形県の食材をとりに行くわけではなく、食材を使った食をとりに行く。

もう一つが、県の職員に最近見学に行かせたのですけれども、長野県飯綱町のサンクゼールという横浜で脱サラした久世さんという方が、240人を雇っているレストランと加工食品の工房があるのです。これは、ペンションの経営で失敗した人が、奥さんの努力でそこまでいった成功物語です。千曲川が見える山の上で、周りが畑で、野菜、果物をジャムにして、それが随分売れているのです。それが、国で6次産業化と言われる農業の改革のモデルだと思って見習っているわけです。そういうモデルをここでつくる。その別名が6次産業化研修拠点施設となっているのはそのためでありますけれども、それをよくご理解願いたいと思うのです。

食と連結したり食品加工と連結するには、高度なシェフが必要です。高度なシェフの育成は調理学校と変わらないのではないかという言い方をされる方もおられるのですが、調理学校とは違います。調理学校は包丁の使い方を教えて、先輩の調理人の下に雇ってもらおうという大変古臭い料理人養成が日本の伝統であったのです。それでは調理人の世界も伸びない。今、日本で有数のシェフになっておられる方は外国に行って帰って来られた人がほとんどです。日本の中の養成学校ではうまくいっていないという事情がある。

調理学校で大事なものは、マーケット、経営センスです。おもてなしをするという経営センスが大事。それは農業にも大事なものです。農業にも、どういうものをつくれば売れるのか、売り方を優しくするにはどのように分けて詰めて売ればいいのかというセンスは、奈良県の女性はすぐれています。男性はだめですけれども、女性はすぐれております。そういう女性の能力を生かしたいという思いがここにあるのです。

それと、きのうツェルマット市の市長ほか議員が来られたのですけれども、市長の奥様はツェルマット市でホテル経営者です。ツェルマット市は人口約6,000人ですけれども、世界のツェルマット市です。観光客が来て、とにかくもう一度行きたいと、人であふれる

ようなツェルマツト市になっているのです。それは大変不便なところですが、経営がいいからです。市長は、議員が7人しかいないと言っていました。自分の会派は3人だけですが、もう1人稼ぐと大体マジョリティーになるというノウハウを教えてくださいましたが、そういう立派なスイスの町もある。ツェルマツト市ほど大きな山はありませんけれども、桜井市の安倍は飛鳥を眼下に置いた場所で、そうならないわけではない。私だけではなくて、見学に来た世界で渡った人がそう言っています。桜井市の安倍も捨てたものではないという自信を持って、今議会にお願いしています。うまくいくと反対したことをころっと忘れられるわけですが、委員の見立てが間違ふことを切に期待するプロジェクトです。

それと、大きなお金を使うといつもおっしゃいますが、桜井市安倍で整備する10数億円のお金は、全部国費の地域の元気臨時交付金です。これは2年で使わないといけないという制約があります。こういう類いのお金は、プロジェクトがあつて考えて、運営を地元がするというパターンでしかなかなかできない。丸ごと国費で、補正予算も国費ですので、国費でもらったのにも反対される政党かもしれません。国費でもらったけれど反対したと言つてほしいぐらいですが、そういう仕立てのプロジェクトということで、大変直截的に申し上げて恐縮ですが。

もう一つは若草山ですが、何度も申し上げておりますが、導入のきっかけは、障害者、高齢者にも山から景色を見てもらうこと。あのような眺望はいいと思いますし、見てもらいたいというのが発想です。ツーリズム・フォー・オールという言い方をして、最近別の言い方でユニバーサルツーリズムという言い方もされており、東京都にユニバーサルツーリズムセンターというのが最近できたのです。東京オリンピックとともにパラリンピックがありますが、パラリンピックがあるのにユニバーサルツーリズムがないと恥ずかしいということでボランティアが最近立ち上げたのです。それが若草山に来たら何だと言われるのはとても嫌です。パラリンピックを奨励している国で、奈良県は反対しましたと、反対したときに矢面に立っていただきたいというぐらいに思います。どうしてここは私も行けないのかと、もし言われたら、私が反対したからと、そのときは逃げないで言つてほしいのです。それぐらいの入れ込みというか、それが狙いだということを何度も言つております。ユニバーサルツーリズムセンターは、ボランティア団体ですが、各地で同じ動きがあり、北海道、神戸市などが賛同しています。これは2020年のパラリンピック、またスペシャルオリンピックスに向けてユニバーサルツーリズムを導入しよう。

これには大いに賛同していますので、それが目標だということをご理解いただきたい。それがないと議論も始まらないと思いますが、そこまでは共通認識というふうに。

若草山はなぜだめなのかということでありますけれども、イコモスの人が来たのは、こういう地域なので固定物は慎重にとおっしゃったと理解しています。だめだという根拠はないのです。ほかにも月日亭などが奥山に、規制の前につくった固定物がたくさんありますので、今まではとにかく新しいのはだめと言う方もあるかもしれません。固定物ということではいろいろつくっておりますし、霊峰ということ言えば、石清水にしろ和気八幡にしろ、最近では洞川の修験道の道でも伝わっていますし、ツエルマット市で一番有力な企業は鉄道会社です。

山の上に行く鉄道会社が一番の稼ぎ頭で、そういうところに固定施設も、いいところですが、がちっとつくって、何百年ももたせる鉄道をつくる世界の冠たる鉄道と山の会社です。あれがないと2,000メートルも3,000メートルも行けません。リフトで見ながら3,000メートルまで数珠つなぎに登っていける仕組みをつくられた。若草山は3,000メートルもないですが、まず見えてはいけないとか、あそこも世界遺産になっていますけれど、別にイコモスが反対しているわけではないのです。世界イコモスとは折衝になると思いますけれども、慎重にという意見には耳を傾けようということで、広く議論していることには安心されたとのことでありますので、議論を続けたいと思います。

それと、神の山という観点から言うと、若草山ではなく三笠山です。三笠山は踏み入れないように。踏み入れて楽しむのではなく、下から信仰するのが神の山ですので、それはこの地域では三笠山ですが、全体が立入禁止の山になっているわけではないのです。それも日本イコモスの人も知らないわけで、知らないまま、ああいうことを言う人たちであると。懸念を表明するのはたやすくできます。ブレーキをかけるという意味はありますので。ブレーキに耳を傾けないわけではないです。ただ、それが決定的で、それに従えと言われるのは全く民主的ではないと思います。従えという言い方はないと。議論のスタートになろうかと思えます。

○宮本委員 NAFICからですが、私も農業が発展していくということや、農業大学の卒業生が就農し、いろいろな研究や開発という分野で奈良県農業の底上げをしていくことを大いに期待している1人でありますので、その点は申し述べたいと思います。また、地元の平群町でも、菊農家の方で農業大学校で学んだことを生かして新品種を根づかせるということをされている方もおります。そういう点は大事だと感じているところです。

その上で、確かに食に強い農業の担い手をつくっていく、あるいはレストランを営む人が農業もやるということが今非常に人気を呼んでいることも、十分承知をした上ですが、それでもなお、意見として申し上げたいのですけれども、この一流シェフを養成することに国の税金であろうが県の税金であろうが、公費を投入することに対して、優先順位という問題で抵抗を感じます。県民の暮らしのアンケートに取り組んでいますけれども、賃金が下がる、あるいは年金が減っていく中で、爪の先に灯をともしような暮らしをしている実態が広くあります。その中で、一流レストランで食事をとることが生活の実感からほど遠いという現状を毎日のように生活相談や、訪問した先で聞いている身としては、県政の課題の中でこういうことが出ることについて抵抗を感じるのが、率直な心情なのです。

当然そういったレストランを広く庶民が活用できるものになっていけば、それはそれでいいと思うのですけれども、いろいろな取り組み、すばらしい取り組みを聞いても、そうならいいと思う反面、日々の生活実感からかけ離れた話だと感じる思いがあることもここで申し上げたいと思います。後で答弁をしていただけたらいいと思うのですが、そのように思っておりますので、意見として申し上げたいと思います。

それから、移動支援施設の問題について言いますと、バリアフリー化や、あるいはユニバーサルツーリズムということで、私も若草山に何度か登りました。本当に一重目からの眺望、二重目、三重目からの眺望、ともにすばらしいので、多くの人に見ていただきたいという思いはあります。その上で、モノレールについては路線変更ということになりましたけれども、バスを走らせるということで、現在出されている案が、当初の案とはまた違って、作業道から入ることも承知をした上で、それでもなお景観という問題です。奈良市の相当広い範囲からバスが展開する場所が見えるのではないかという思いを持っており、そういうことに配慮した上でも作業道から車椅子などで二重目あたりまで行って景観を楽しむ、あるいは奈良奥山ドライブウエーの山頂付近からバリアフリーで眺望を楽しむという整備は、そういった景観や、あるいは史跡という問題に配慮しても十分可能ではないかと思っておりますので、そういう意見を申し上げておきたいと思っております。また、文化庁から国会の審議の中で述べられていますけれども、名勝指定された後に構造物をつけた事例はかつてないということや、世界遺産登録をされている地域はいずれもそういった移動手段が設置された後で指定されているということも、我々は見ておく必要があると思っております。バッファゾーンとはいえ世界遺産登録をされた根本には、1, 200年の長きに

わたって人々があの環境を維持してきたことが評価されて自然遺産ではなく文化遺産として登録されたということです。後で、不便ではないかと言われたときに、私は矢面に立って、いや、ここは世界遺産登録をされたバッファゾーンなんだと。多少ご不便をおかけするけれどもモノレールはつきませんでした。でも、ドライブウエーから登っていただいて、少し車椅子で移動していただければ十分景観を味わっていただけますというような道もあるのではないかと思いますので、そのように意見を述べたいと思います。

○荒井知事 桜井市安倍のレストランですけれども、先ほど紹介した久世さんは、飯綱町で、桜井市の安倍よりもひなびたところで、随分前に行って、何にもないところでしたが、それが今240人を雇用されている。みんな食べに行きなさいというのは、そういう雇用があると。それと、きのうはあやめ池にアル・ケッチャーノの奥田さんが来て、すごい人気で。これは競争が起こるでしょ。1万6,000円ぐらいのディナーショーだったらいいですけども、程度の高い、その1万6,000円のディナーを毎日食べるというセンスはありませんので、それは誤解しないでください。みんなが食べられないのに毎日1万円の食事を食べに行けというセンスはないことを確認しておいてください。

しかし食べに来る人はいるが、奈良県にないと。大阪府にはある、京都府にはある、奈良県にはないというのを比較して、奈良県にもあつたら来てくれる、そこで消費される、それで雇用が生まれるというパターンを奈良県は追求しないと。日本共産党の党是かもしれませんが、京都府でそういうことを言っただけならば、もっと京都府から奈良県に来るのではないか。京都府はそういうことを気にしないでいい店を、2万円もする店をつくるから内閣総理大臣でも元首でも京都府で泊まられるというのが実態になっているのです。

だから、レベルの高い店があると、周りがみんなよくなります。レストランの経営も、調理も、低目で抑えようとする風土がこの地域に強いのです。ぬきんでているところがあれば、抑えてはだめです。食べに行けないではないかという言い方は、絶対あり得ない。よそから食べに来る人はたくさん、世界から来ると。世界から来るのにどうしてつくらないのですかと。1年に1度ぐらい行くぐらいでもいいのです。そういうレベルでも、毎日行けないではないか、いや、そういう人たちはまた行けるチャンスもあるというように、世界から来る人を見ていると、その雇用が回ってくるというのが大きな狙いです。狙いを明確にしたいという思いで再答弁しました。

それと、若草山の景観とおっしゃって、私、毎日若草山を見ているのですけれども、本会議でも言いましたが、宮本委員が撮った写真は望遠レンズではなく、ズームアップしただ

けだと山村議員が答弁されましたが、どちらなのですか。

○宮本委員 普通のカメラのズームアップです。

○荒井知事 カメラのズームアップは望遠機能をつけて撮っただけではないのですか。見えないですよ。あのレベルの大きさを私の目では全然見えないです。見えると本会議での看板を出されたのは、どういうことですか。もしかしたらうそになるのではないかと聞いて憤って言ったのです。

○宮本委員 誤解です。

○荒井知事 誤解だったらいいのですけれども、望遠レンズではなくて望遠機能のズームアップということですか。

○宮本委員 本会議場で示した写真は、奈良市内の広範囲において設置したものが肉眼で確認できたスポットがこれだけあるということを示す地図だったのです。どのようなものを置いたのかが議場におられる皆さん、あるいはテレビを見ておられる方にわかりやすく示そうと思って、こういうものを置いたという意味でその写真だけズームアップしたものを示しました。あの地図で赤のシールや青のシールを張って示したスポットは、肉眼ではっきり見えた、あるいはやや見えたというものです。裸眼ではなくて眼鏡をかけた矯正視力ということはありませんが、決してズームアップではなくて、視力1.5程度の裸眼視力や矯正視力で見えたというものがこれだけありますということを示したものになります。以上です。

○荒井知事 論理的に言うと、あそこに置いたのはこういうものだと写真で示しましたと。あ那时的説明では、この地域からこのように見えましてと言われなかったですか。そのように聞こえたから、それはうそではないかと言ったのです。このような大きさで、県庁の私の部屋より遠いところからあのように見えることはないというのが私の感じです。遠いところに赤い印がついていたでしょう。県庁よりも遠いところ。

○宮本委員 議事録が手元にないので、私が正確に何と述べたかは記憶の範囲でしか述べられませんけれども、相当な広い範囲から見えたと言いました。あそこで示した写真は、こういうものを置いたのですという意味で示したつもりです。

○荒井知事 それでは、そのようにもし言っていなければ、修正して理解させてください。あそこに見えたものを写真で出したわけではないと。赤い点からこのように見えたという写真ではないということは確かですね、今おっしゃいましたね。

あのように、あの遠いところから見えたわけじゃないでしょう。見えることはないです

よ、あの写真は。

○宮本委員 模したものを置きました。それが、相当な広い範囲で確認できたという意味です。はっきり見えたという方と、何か物が置いてあるというのがわかったという方で色分けしました。その一人一人に、どのように見たか、どのような形態で見たかを絵で描いてもらったり、その場で写真を撮って確認するというものではありませんので、私は決してこういうものがあの離れた地域から見えたと言うつもりは全くありません。その立場に立ってそごがあれば、それは修正には応じるということをお願いしておきたいと思いますが、私があので申し上げたかったのは、奈良市の相当広い範囲で確かに景観に影響があるあらわれ方をするだろうという思いを述べたということです。

意見、思いはそれぞれ述べ合えたと思いますので、これ以上深入りはしませんけれども、格差と貧困が広がっているという中で、本当にぬきんでたお金持ちの方も確かにふえていると思うのです。この間示された景気動向を見ても、年間所得が200万円を切るという人がふえているという統計が示されました。また逆に1,000万円を超える人もふえているということは十分お互いの共通理解とする必要があると思います。その上で、確かに1,000万円を超える所得の人に来てもらって食べていただくことで雇用がふえるということは、これは確かに県のあり方としては大いにあり得ることだと思いますが、日本共産党がそれを大いに進めるという立場にはどうしても立ちがたい。この極端な格差拡大社会を是正することが行政の役割だと思います。世界でふえている大金持ちの人にどんどん来てもらうという発想にはどうしても立ちがたいということをお願いしたいと思います。以上です。

○上田委員 若草山の移動支援施設について、宮本委員とは全く違う観点での考え方で発言したいと思います。あえてこの委員会で質問するという気持ちになったのは、日本共産党の代表質問なり一般質問、また各委員会での質疑を聞いていると、さわらないことがベスト、さわるといふ論調から物事を組み立てておられると。そして、きょうの宮本委員と知事のやりとりを聞いていても、よりわかりやすくするために写真をあのような提示の仕方にしたのだと。これは県民に誤解を与えていると感じています。そして、日本共産党、並びにきょうのこの委員会で宮本委員が発言されている内容が、まるで大多数の意見として県議会で議論されているような誤解を与えているのではないかと。というのは、よりよき整備をしてほしいという気持ちの議員が、誰も発言に触れていません。きょうはあえて触れさせていただくという立場ですので、少し前置きをした上で申し上げたいと思います。

日本共産党の主張は何もしない、完全凍結をというような求め方の論調に聞こえます。今までいろいろな奈良公園地区整備検討委員会での議論の過程なども聞かせていただき、議論を重ねながら、よりよき整備を考えていこうという姿勢に立って積み重ねて来られたことに敬意を表するものです。その上で、モノレールではなくバスにしましょうかと、ある程度の構想がスライドしてきている。これも議論の上での流れですので、これは了とするものだと考えています。その中で、歴史を守るために完全凍結を、さわらないのが一番だと言われると、私は違う気持ちを持っているという思いがありますので、私の考え方を述べながら知事にお尋ねしたいと思います。

世界一の奈良公園です。その中で、貴重な財産である若草山です。そして、千数百年の間、守ってきた財産。ではさわらないで守ってきたのかというと、維持管理を含め、これも整備という言葉に当てはめると、守ってきたのです。さわりながら、維持管理しながら守ってきた財産と思っています。そのすばらしい眺望を多くの人たちに見ていただく、そういう機会を与えるために、先ほどユニバーサルツーリズムという単語をもっておっしゃいました。より魅力を向上させよう、そして、おもてなしの気持ちも向上させようと、取り組みをこれから進めようという構想であるので、大いに議論を重ねていいものをつくってほしいという思いで考えているところです。

きのうの部局別審査でもこのことを取り上げて、奈良県の、大昔から使っている課題の言葉を利用したのです。保存と開発の調和。20年も30年も前から、奈良県が抱える大きな課題のキャッチコピーです。開発という言葉を使うと、若草山の山を切り開いて何かさわるというイメージになってしまいます。これも先ほどの宮本委員のパネルと一緒に、わかりやすく表現しようとして誤解を招く可能性がありますので、あえて開発ではなく、私は保存と整備の調和、このハーモニーをという言い方をしたいのですけれども、そのような観点に立って奈良公園地区整備検討委員会もいろいろな議論を重ねていただいていると思います。そういう意味でモノレールからバスになった。その過程の中には、例えばゴルフ場で利用しているような電動カートのようなものや、もっと極端に言いますと、浜辺で走っている四輪バギーのようなものがあったり、ロバや馬に引かせるような馬車があったり、移動支援ということについてはいろいろな手法があるはずなのです。そういう具体的な話も積み重ねながら、最終的にこういうふうに奈良県はしていくのだという流れに立って、よりよき整備をしてほしいという思いでこの質問をするわけです。知事のご所見をお願いしたいと思います。

○荒井知事 基本的な考え方として、宮本委員は凍結保存を前提におっしゃいました。今、凍結保存を言う国はほとんど少ないです。日本のユネスコ一派の方は、古い言葉で凍結保存と使われますが、それも言うておられないです。文化庁などが言う文化資源の活用が、世界の潮流になっています。保存と活用ということです。保存を抜きにはできないけれども、活用しないと保存はないというように変わってきています。保存を前提にした活用をしよう。無形文化財は実にそうですけれども、それを見ないと無形文化財は保存されないわけなのです。自然は人が入ると必ず劣化しますけれども、極端に制限したり義務を課したりして、自然文化遺産は保存される兆候になっています。しかし、入れないというところはほとんどないのです。

入るときに、人が方々に勝手に歩いてしまうよりは、固定施設で、ここだけ回れますよといったほうがいいやり方だという考え方もあるのです。だから、もしそのような地域、自然の保存が必要であれば、ほかに回らないために、このモノレールしか乗ってはいけませんということをやっている国もあるわけで、そのやり方はいろいろ出てきていると。できるだけ多くの人に見せるのがユニバーサルツーリズムですけれども、誰でもどのようにでも見せるということとはまた違う。これは世界遺産であろうとなかろうと、街のところで同じだと。そのような上品な観光地をつくりたい。上のほうはあれが厳しい、街のそのあたり、汚いという評判じゃないですか。

(「申しわけございません」と呼ぶ者あり)

いやいや、皆さんに言ったのです。賛否があるということは議会の民主制の証明であります。実は奈良県で奈良県議会のことを一番報道されているのは赤旗だということが最近わかったので、公平に載せていただくように、むしろその意味で申し上げている面もあるのですけれど、主張ではなくて報告を載せていただきたいというので、お願いする次第です。断固やめろというのは民主的な言葉ではないので反発した面があるのですけれど、議論を聞こうと、やめるという選択肢もありますよと、最初から言っていると言いたいぐらいです。しかし、決定的な理由がないと、絶対だめだとは言いませんというのは、基本的な考え方になっているわけです。こんな身近な山にどうして登れないのかというのは素直な見方であると思いますが。

山の厳しいところにも行くような仕掛けをどんどんつくって、観光目的というよりも保存目的で大事にしていることを見てもらおうと。大事にしていると、その仕方を見てもらおうというのが今の観光地の重要なことです。凍結保存という言葉はその分野の研究者の

言葉です。凍結しておきますと、開くときは自分だけが開きますよという、考古学のその一派の人の言葉です。だから、宝物は研究所に、凍結保存されて、私だけが見ると言われるのが奈良の文化財、発掘の遺跡ですけれど、これを興味を持って見に来られる人がたくさんいるのです。貴重な遺跡をどう見せるかというのは大きな課題です。見せ方を研究者にだけ任せていると、文化資源は活用されないというのは今の文化庁長官の本にも書いてありますし、世界の潮流でありますので、凍結保存の考え方を脱却しようという言葉です。凍結保存は共通認識とはならないと思います。

○上田委員 官本委員が知事の心に火をつけてしまって、私がうちわであおいだのか、でもいい議論だと思うのです。何もなし、さわるなという議論には、異論を申し上げたいので、あえて、ここで官本委員と論陣を張るつもりもないし、委員間討論をするつもりもありませんけれども、そういう考えのものだということをあえて申し上げておきたいと思います。というのは、先ほど申し上げたように、奈良県議会でこの政治構想を本当に期待を持ってという発言が今までなかったもので、あえて申し上げたところです。

総じて、知事の県政にかける姿勢は、奈良県をグレードアップさせたいのだということ、これは全ての政治ファクターに通じているとお見受けしています。その中で、特にこの魅力の向上、そしておもてなしの気持ちの向上という部分を、この奈良公園で、若草山でアピールしようとされていますので、奈良公園地区整備検討委員会の議論を経て、立派な保存と活用の整備構想が出てくることを期待したいと思います。以上で終わります。

○荻田委員 知事に数点質問したいと思います。

第1次安倍内閣では経済再生に向けて、一生懸命頑張っていこうとっていただいた。しかしながら、デフレ脱却がまだまだできないという中で、何としても地方に活性化を、そして人口減少が著しいという思いで、第2次安倍内閣はこれをもとにして地方創生をしっかりやっていこうということです。重点施策として掲げておられます。このことに、私も当然のことながら歓迎して、地方に活力を戻していきたい。東京一極集中がますます増大している中で、都道府県レベルの知事は、地方創生を歓迎されていると思います。そして、都道府県が競い合って、地方創生にかかわるいろいろなメニューがこれから出てくるだろうと思います。まさしくチャンスであると思っておりますが、知事も、いち早く奈良県地方創生本部を立ち上げられ、これからの県下の活性化とともに人口減少をどうして食い止めていくか、あるいは女性の社会進出をどう図っていくか、こういうような議論をテーマにして、スタートされたと思いますが、その辺お聞かせをいただきたいと思いま

す。

それから、奈良県総合医療センター移転跡地を活用したまちづくりということで、地域の方々のきめ細かな意見の集約をされている中で、今度、アイデア公募を実施されるようであります。全国のいろいろなこういった病院がなくなって、跡地利用やあるいは公団住宅の出入りが激しくなったり、高齢化をもとにした千葉県柏市の施設づくりなどたくさんふえております。こういった観点から、もっとよりよい、専門家の意見を聞くということでこの公募を始められたらと思っているわけです。地域としては、医療施設を主にしながらも、地域包括ケアシステムの導入をさらに進められるように、そして病院を核としたまちづくりで進んできた今の奈良県総合医療センターです。少子化、高齢化が進んでいる中で、花が咲くようなまちづくりをしていただけたらと思っているわけですが、このことについてお答えいただきたいと思います。

それから、県営プール跡地へのホテル誘致について、知事に何度もお尋ねしています。奈良県、とりわけ奈良市付近、ホテル客室数では全国ワースト2とお聞きしています。何としても高級感あふれるホテルを誘致したいという思いと、そのホテルを中心とする敷地の中でコンベンションホール、さらには関西空港からのバス輸送のためのターミナル施設、そしてNHKの会館など、こういったまちづくりを率先して進めていきたいという思いでございます。ホテル誘致について、先般、委員会でもお聞きしますと、10月末には大体方向づけが出てくるのではないかと言われています。特に、知事の肝いりで、どうしても1泊泊まっただき、奈良でしっかりとお金を落とさせていただいて、そしておもてなしの心とともに、この文化を共有する古都奈良としてのたたずまいを見ていただきながら、また奈良に来たいという気持ちを持っていただけるような施設を誘致してもらいたい。先般も安倍首相が京都に泊まれ、そして東寺へ行かれたと。奈良県には、奈良ホテルはありますけれども、もう随分老朽化が進んでいるという中では、大きなインパクトがあるのではないかと思います。

反面、知事が、高級感のあるホテルを建てるのだという思いはよくわかります。しかし、県民の皆さんの目線というのは、いろいろであります。あのような大きな投資をしてどうなるのかということも一つある。知事のこの思いをしっかりと説明していく責任があるのではないかと考えています。そういった方向でしっかりと進んでいただきたいという思いがありますし、ぜひ国際級のいいホテルを誘致できたらと思うところですので、その辺についてお聞かせください。

それから、商店街の振興にかかわって、プレミアム商品券の発行、31億5,000万円を予算化されていると思います。今月から売り出すとお聞きしています。一つは県政の常道からして県内で何とでもお買い上げください、県外で買っていただいたら消費税やそういったところに影響しますと。だから、郊外の大きな量販店であっても、百貨店であってもどこでもいいですからぜひ買い上げてくださいということは、よくわかります。その反面、私たちが県下で見る商店街やアーケードのシャッターが閉まったり、いろいろな通りがあります。まさに郊外型にどんどん転化している。今までのような地域で細々と生活し、商店街として息づいている商店街はもう立ち居かないような状況になっています。しかし、県政としては商店街振興にも大きな補助金をかけたり、そういった思いを連ねていただいています。

知事もこのことについては、そうですとおっしゃってくれると思いますけれども、実は先日、奥田副知事にお尋ねさせていただいた。これからの商店街にはそういった期待は望めないのですと、言わんばかりにおっしゃったものですから、反論して、これは総括で知事にお聞きしたいと申し上げました。知事はそういうことについての判断は、県民目線でお話ししてくださるものと思っておりますが、お答えください。

○荒井知事 地方創生にかける思いということですが、安倍内閣が集团的自衛権一点張りですとこられて、一段落して、今度は転じて地方創生に、内政に向かわれたのは私どもの立場としては本当に心から歓迎しています。とりわけ、奈良県は60ものプロジェクトで地域再生、振興しようということ、具体的にしようということをしています。先ほど委員がおっしゃったように、県民の理解を得るために、エビデンスを出そう、どうして奈良県がおくれたかという理由を考えようということをお職員と何度も話をしています。エビデンスを出さないと、信じてもらえないということで、エビデンスを出して、議論したら、宿泊客は全国最下位レベルで、宿泊客が少ない、宿泊率も低いというのが統計で出ている。それをあまり言わなかった、市議会でもそういうやりとりはなかったのですけれど、今やそれがよくないことだということはだんだん浸透し、町でもそういうことを言うようになってきて、それを基本にして奈良らしく発展するならどうしようかというステージに入ってきているような気がします。

地方創生はいろいろなアイデア、地域の実情に応じたアイデアを受け付けるといっているのが、歓迎するところであります。地方に足りないのはいろいろな要素がありますけれども、国がお金を出せばできるということではなく、あるいは人を派遣してア

アイデアを出すということだけでなく、地域が格闘して、場合によっては地元の人と意識を競闘というか、そうではなくてこうしないといけないということをいろいろ言って、やっとならざるを得るようなことだと思っております。奈良県は数字を見るといいところもたくさんありますが、おくらしているところが結構あります。観光の宿泊や雇用がない、史跡率は極めて高い、それと女性の雇用率が最下位である、出生率がワースト4位である、農業がワースト3位であるなど、いろいろなことが関連していることもあるし、そうでないのもあって、関連していることは1つ改善すれば芋ずる式に改善できるのではないかという連鎖を求めながらやろうとしているのです。少子化で、女性に早く子どもをつくりなさいと言うだけでは全然できませんので、そのためには若者に職を与え、賃金を上げるということが常道だと思います。奈良県はその点大変おくらしておりましたので、それを何とか時間がかかりますけれど、格闘できないかと。企業誘致という点では、数では、過去に比べて成果はありますけれども、他の市と比べてという点ではまだまだ努力が必要かと思っております。地方創生の中で、国とも呼応して、少子化対策を念頭に置き、また、若者雇用の創出を大きな目標にしたいと思っております。今度、産業興こしで9つのプロジェクトをターゲットにしましたが、現雇用者は大体20万人ぐらいおられます。その中で、小売業者もおられますが、大変貧弱でしんどい思いをされている方もいるので、その商売がはやるように、所得がふえるようにというのは地域の努力がないとできないと思っております。国に音頭をとっていただくだけではだめで、国のパワーが必要なところもあり、地域の元気臨時交付金は大変助かりましたけれども、そのような交付金を使って、奈良県らしい将来に役に立つ投資をしなくてははいけない。福祉のために使うのは投資ではなく扶助ですので、助け合いも大事ですけれど、将来の投資は今すぐにリターンがないわけです。将来の人にリターンがあるので、その投資と現世の扶助のバランスがいつも大事だと思っておりますが、奈良県は総じて将来の投資がおくらげみであったという感じを強く持っております。いろいろなプロジェクトを出しており、将来の投資をこの際奈良県らしく、それと振興は奈良県らしさをなくしたら地域として発展しないことは強く思っています。奈良県は3つの地域に分かれています。北和及び西和地域といった東京、大阪圏に近いところと大和平野の中の大和川流域と山間地域の3つの地勢に分かれます。それぞれの課題が違いますので、それぞれの課題にあった振興策を県は考えなくてははいけない。それぞれのご出身も違いますし、それぞれに合ったことを考えていきたい。県から見た地方、各地、地方創生はそのような違いがあると認識して、それを束ねて国へ陳情をしたいと思っております。その中に入ります

けれども、どちらかと言えば、今までしてきた医療改革の中で、議員にもいろいろご尽力していただきましたが、奈良県総合医療センターの改革が軌道に乗ってきたように思います。北和地域の医療が貧困であったと言われるのがこれで一変するという期待を持っておりますが、その中で今の奈良県総合医療センターが移転した後、平松町をどう使うかということが課題になります。医療介護総合確保推進法で、地域包括ケアシステムという言葉が出てきておりますが、どのようにするかは国の方針ではっきりしていません。医療と介護と生活支援という3つの要素があると思われま。医療だけでは地域包括ケアシステムにならないが、高齢になりますと医療は必須項目でしょう。医療だけなら病院で面倒を見てもらえばいいが、社会において療養という形で多様に発生したのを変えようというのがこの思いの中に入って、まちで高齢者、障害者の面倒を見よう。まちというのが大きな鍵。それと、在宅というのもありますけれども、在宅とまちと地域で、平松町はそういう地域包括ケアシステムがいき渡ったまちにならないといけない。3ヘクタールぐらいの敷地ですけれども、これぞ地域包括ケアシステムが充実したコンパクトなエリアだというふうにならないといけないという思いを強く持っております。そのような勉強をしておりますが、そうすると、そこに来られる方は高齢者だけではなくて、認知症患者や障害者も当然地域包括ケアシステムの中のメンバーで入れますし、障害者は働く場所というイメージもありますし、若い人が子育てができる場所というのもあります。その対象の人をどれだけ広げられるか、その人たちがそのような場所で便利に生活できるかといった新しいまちづくりを試す場所という非常に理想的な方向で考え始めております。そのための総合性確保で国も来年は介護も含めた基金を出すと言っておられるので、アイデアとしてこの平松町も大きなプロジェクトとして、浮揚していかないといけないと思っています。奈良市医師会も奈良市も関係者も協力的で、今、議論が進んでいます。みんなは地域包括ケアシステムのまちとはどのようなものが余りイメージできない。辻哲夫さんという人が東京近郊の柏市の大きな団地で実験されようとしています。既存の団地で実験するのはより難しい面があります。厚生労働省の事務次官をされた辻哲夫さんが課長時代につくったのが河合町にある、奈良ニッセイエデンの園です。あれがそういう地域包括ケアシステムの館のイメージです。彼のイメージは、すばらしいものだと思います。ああいう施設的な経営はほとんどが失敗しているのですけれども、あそこは日本生命と聖隷会が共同設立して続いているといった成功法です。あの施設を地域に拡大するといったような延長線にもあろうかと思ひます。新しい知恵が要るように思ひますけれども、コンパクトシティと

言われるように、既存のまちを高齢者が住みやすいように変えていこうと。要素としては歩きやすいとか、蹴つまずいても大丈夫だとか、自転車や自動車が分けてしか通らないとか、そういう接触事故が起こらないようなまちの設計という優しくケアが、あるいは必要な情報が入る、手が届くというまちのイメージがある。これは理念的なことです。それが現実にできるかどうか、これから工夫をしてみたいと思います。理想に燃えている平松町、委員に平松町と大分言っていただいたので、一生懸命考え始めて、このような考えに至るまで来たということで、感謝をしているところです。

もう一つは、県営プール跡地の、ホテルだけではないのですけれども、地元の味が出ないとだめだと。奈良県で空間としてまとまったところを楽しめるところが一つもないです。そういう楽しめるところが一つもなく、また、国際級のホテルが一つもないです。それで、外から来る人を取り逃がしてるということが悔しい。それと、大きなコンベンションができない。国賓級のVIPが寄れないというのが実情です。それをそろえる地域になり得るというので、そういう設計をしているのですけれども、ホテルの部分は民間の資本家があったほうがいいと言うので、民間の投資家を募集しようとしているところです。全体として奈良らしい雰囲気があって、そこに来て、人があそこに行けば奈良は楽しい、奈良らしく楽しめるよと。宿泊は、そこで泊まらなくてもいいわけですから、出入り自由でほかへ泊まっていこうと、バックパッカーのような若者が行くというようなアイデアです。外国人が来る場所は段々差ができて、外国人向けの紹介サイトの中で一番人気のスポットはディズニーランドです。3番目に、ナガシマリゾートが入っています。これは、ジェットコースターがあったり、花があったり、田舎だけれど楽しめるので、人気を呼んでいます。あるいは岐阜県の高山や、田舎の町でもサイトがあると人はどっと押し寄せます。奈良県はそういうポテンシャルはすごくありますが、欠けているものはホスピタリティーと宿泊施設。いいものも要りますけれども、バックパッカーが泊まるようなものも要る。猿沢荘がそのような拠点になればと思います。両方がなかったということです。

高級感、高い値段ということではないのです。

今求められているのは、サービスは高級だけれども、値段はリーズナブルということ。ヨーロッパではカリテプリと言いますが、値段とサービスのバランスがとれていて、値打ちが上でないと絶対人は来ないと。奈良は今まで、値段は高級だけれどもサービスは低級だと評判が立っていて、これを払拭したい。そういう人がまちに少しでもいるとブランド化を阻害するというのが、実情と認識しています。そういう人はもう出さないでくれ

と、表に出て、これが奈良の旅館だと言わないでくれと言わんばかりの勢いで説得しています。奈良の旅館は値段はそこそこだけれども、サービス感あるでしょうというふうに変えていきたい。これは行政が変えられるものではありませんけれど、そのようなタイプのリーディングホテル、模範となるモデル、レストランでも何でもあれば、皆そこに寄ってしまうから、周りが大変でまねをしないといけない。そのまねをするリーダーを押し潰すという動きが今まであったのがおかしい。ぬきんでるサービスは、京都、大阪、ソウルでどんどん出ていて、自分で競争に負けてしまっていたのではないかと人が言うわけですから、それは悔しい。

そういうサービスのリーダーをつくろう。サービスは上品で最高だけれども、値段が必ずしも高級ではありません。ツェルマツト市の観光担当職員が来ましたけれども、山があるからといって高い値段は絶対取らないです。山の下と同じ値段なのです。彼らのいいところです。こんな世界遺産があるところに来たから、高い値段を払っていけということは絶対に言わないのがスイスのサービスです。それを見習いたいと思います。まだ見習いきっていないです。いい場所にあるから客が来ると、こういうような旅館も多いわけですから、それは奈良のブランド力を極めて低下させている人ではないかと思います。

そうではないサービスを入れることによって、奈良のサービスのブランド化を進めていけたらというのがこのプロジェクトに入っています。それと併設して、県が周りの環境を整えますけれども、全て民間に任せるというのは無理ですので、ホテルサービス部門は民間でやってもらいますが、できたら国際級ということは、実は宣伝が少なくて済むわけです。サイトで何々ホテル in 奈良とあると、奈良にもこのタイプのホテルができたのだと。ホテルはブランドを大事にします。このレベルのブランドを落としたくない、奈良でサービスが悪いとブランドに傷がつくから、その国際級レベルのブランドのレベルに合わせるということが一番の信用力になります。奈良にしかないブランドであればこんなものだと思わせるから、奈良ホテル in 東京があれば、東京と奈良は大分違うんだと見られて、比較されると東京では生きていけないわけです。勝つということは値段が高いだけでは絶対にだめだと思います。だから、ほかの価値で競争に勝つクラスのレベルの、観光拠点をつくりたいと思います。

それから、商店街のことですけれども、商店街は奈良県がこれから力を入れるべきどころだと思っております。商店街は活性化しないところと活性化しているところで差が出てきております。例えば、東京で地蔵通りとか、お年寄りでにぎわう通りとか、同じ場所

の中でも差が出てきているのです。関西でも地方でも差が出てきている。この通りははやっているのに、この通りははやっていない、そのような調子ですので、街角のにぎわいを分析して、これといった理屈もないのですけれども、とにかく商店街がにぎわう条件があるように思います。

その要素は、1つは多少値段が高いものでもおいしいものが食べられるところでないといけない。ラーメンでも田舎であっても人気のあるところは並ぶのですから、何かおいしいものがあると人が集まる。音楽やイベントでまちのにぎわいをつくるというのが、普通の手法です。商店街で、昔はちんどん屋が大売り出しで歩いて、それに一緒について歩いてあめを安く売ったり、そんなにぎわいのあるときはお小遣いをもらって買うというのがまちのにぎわいであったのです。そのにぎわいがなくなって久しい商店が多い。ヨーロッパでは、街角でピアノを弾いたり、ジャズをしたり、東北地方の田舎の気仙沼でもジャズフェスティバルを10日間したら何万人と来るなど、そういうイベントが各地でいろいろ競争されています。奈良でもまちの商店街活性化のためにいろいろやっておられる方もいて、最近、天理駅前ではマルシェで駅前商店街がにぎわって、それが定番になるようにということがありますので、物議を醸しましたが、近鉄奈良駅前行基広場も屋根ができて、東向商店街の人に大変感謝されております。あそこでいろいろなイベントができました。そのときは、応援演説をいただけなかったのですけれど、今は、とても感謝していただいているように思います。

あそこで誘導して、自然と向こうに行く。そうしたら、お祭りをして、県庁前に行かせるな、こちらにまず来させろというのではなく、自然に足が向くように、帰り道でも、自然にそこでバイバイでもいいわけです。そのようなまちづくりや、イベントが大事です。流行っている街角、旅館では商店街の人が協力的です。シャッター通りや空き家があると、何とかしようとしても、ある程度を超えともうどうしようもないとみんな諦めてしまうのですけれど、ある程度手を入れて復活するとなると、そのまちの若者が熱心になり、奈良町では空き家をなくして頑張っている人がおりますし、各地でもそういう試みがあります。既存のまちがにぎわうかどうか保証はないのですけれども、新しくエネルギーを注力したところはそれなりに動きが活発になるのが実情です。

それと、商店街がにぎわうには、自動車はおりないですから、自動車をとめて商店街で物を買うのは絶対だめです。駐車場があって、歩いてもらわないといけないので、アクセスが大事。コミュニティバスで商店街を回りやすくするコンパクトなまちづくり、新しい

まちづくりということで、県ではそのまちづくりを市と連携したい。また予算でお願いしたいと思いますけれども、活性化にしる、まちづくりにしる、県と市町村が連携したら、県は過分の協力をするという協定を締結したい。

ですから、まちの通りのにぎわいをどうするかということも当然入ります。これは、県が言うだけでもだめです。市だけでもだめだし、民間の人と協力して、それに県と市町村が応援の投資するというスキームを考えて、今、打診しております。市町村で前向きになっている方もおられますが、まちづくりは、商店街振興だけの話ではありません。商店街も人が来ないと流行りません。そのようなことを考え始めております。

○荻田委員 随分いいお話を聞かせていただいているのですが、ともあれ、ホテル誘致に関しての説明責任や、あるいはこういうことを県としてはやっているなど。特に業界に、奈良県にとっては必要だということをしかりとアプローチされることが、誘致に近づくのではないかと思うのです。地元が歓迎することが、大切だという思いも申し上げておきたいと思います。

それから、プレミアム商品券の販売が始まりますけれども、今、奈良市内の商店街で実際に手を挙げているところは4つあります。東向商店街、東向北商店街、小西さくら通り商店街、もちいどの商店街だそうです。こういった中では、随分いろいろなことを自分たちで考え、そうめん流しをやったり、いろいろな祭りをしたり、人を寄せる工夫をみずからやっているのですけれども、成功しているところは奈良市内でもこういったところかと思うのです。ところが、地方に行きますと、シャッターが閉まっているところが多い。だからこそ、個別店舗に力を入れていくのはよくわかるのです。だけれども、地域の振興はそれぞれ所管される市町村の首長が力を入れて、対応をしていくというのが一番望ましい姿であると思っていますし、購買力、消費力がより一層県政の税収増につながるものだと思っているわけです。ホテル誘致は先がまだ見えない状況ですけれども、高級感のあるホテルを誘致して、VIP待遇の方々にお見えいただいて、そういった方々によって、奈良はいいところだという底上げも必要だと思いますし、対応を強くお願い申し上げておきたいと思います。

それから、知事は随分いろいろな大和野菜を東京に、トップセールスをやっていただいて販路開拓している。このことはもう私たち頭が下がります。奈良県の農家が耕作面積をふやし、よりいいものをつくってブランド化して、市場に出していく、こういう手助けに農業の担当の方々には、真剣に考えて取り組んでいただいていると思います。農家の気持ち

と、知事の思いというもの、耕作放棄地が3,600ヘクタールある中で、何としても良好な美田をつくって、いい大和野菜をつくろうという思いに立って、頑張っていたきたいという思いでいっぱいです。私のおじがアサヒ冷蔵株式会社という大正時代からある会社を立ち上げて、大きな冷凍会社で、今も顕在です。大田市場に目を向けていただいたのは、知事に非常に頑張っていたのではないかと思います。

6次産業化や、先ほどの農業大学校の話で、あぁいった加工までして、レストランというところまでなかなか思いつきません。知事は西欧諸国について非常に勉強されておられますから、こういった中での発想は違うなと思います。農家が少しでも所得が上がって、消費者には喜んでいただいて、安心して食べられる食材の提供を力を入れて頑張してほしいと思います。

それから、もう一点は、イチゴです。イチゴは前知事が名をつけたアスカルビーです。だけれど、奈良市域でつくっているイチゴは章姫です。これは静岡県の一農家が品種改良して、当時の奈良市農協の組合長と契約してつくり始めたものです。だけれど、何十年たっても章姫をつくっているのです。土壌の改良やいろいろなことをやりながら、おいしいイチゴづくりをしています。農家の皆さんはそれぞれの田んぼの横に、買いに来ていただける館をつくって、農家とお客さんと顔の見える関係で商売をしておられます。奈良市の地域では、皆さん頑張っています。

あと言えることは、イチゴにしてもトマトにしても、特にイチゴですけれども、品種改良のことを随分申し上げてきたのです。イチゴに限っては栃木県のとちおとめ、そして九州のあまおう、両翼で頑張っておられます。これはもう県が力を入れています。県が、4パック入った1箱の値段を崩さないのです。イチゴの値段が安定しているということです。知事がこれだけ食材や、農作物に対して思いをはせていただいている中でぜひ全庁的に、こういったアイデアの工夫が、必要であると思います。知事もこういった方向でますます元気で頑張してほしいと願っているわけです。

それから、最後に、地方創生の時代であり、市町村支援のあり方について財政支援、そして人事的な支援、いろいろおやりいただく奈良モデルがこれから都道府県それぞれの地域に花が咲いていく、一つの事例として、自分たちの県は自分たちで守っていこうというところが随分出てくると思います。それでないと、都道府県もそれぞれ人口の動態変化・減少傾向によって、立ち居かない状況になっていくと思います。今こそ、こういった共存共栄、相互信頼の中で支援していく体制づくりが求められていると思います。

それと同時に医療についても、平成19年の妊産婦の事案、母子ともに亡くなられたことから、つらい、痛ましい事案であったわけですので、知事は断らない医療体制の構築をされてきた。私も知事の医療に対する情熱なども鑑みて、本当に前向きで、県立医科大学と対決をしながらも、どんどん知事自身がタクトを振られた。本当に情熱家だと思います。奈良県総合医療センターの総長や奈良県立病院機構の榊理事長を迎えてしっかりやっつけていこうということで、今、建設中である新奈良県総合医療センターは一次救急から三次救急まで特化して断らない救急医療、それから重篤な患者さん、さらにはがんに特化した患者さんなど、いろいろ工夫されてやっっていくということです。ここまでできるかなという思いは実際のところあります。しかし、知事として責任を持ってこれをやるということです、ぜひその実現に向けて努力してほしいと願っています。

しかし、本体の建設が、ことしの後半から始まっていくわけですし、平成29年度にこの病院も開設となります。それから、ホテルもまだ顔が見えない。観光、企業立地、いろいろと盛りだくさんのメニューの種をまかれた。今度は収穫の年を迎える次の4年間、知事の思いをしっかりとやっていただかなかつたらどうなのだろうかと思うのです。そこで、来年4月統一選挙の改選期です。知事が、過去8年間の実績を踏まえて、最後の種をまき、芽を出し、そして収穫するという時期になります。今の心境を、披瀝をして、知事、感想ありましたら聞かせてください。以上です。

○荒井知事 委員にいろいろなプロジェクトを理解していただいて、意見を言っていて、それにまた応える形で県庁職員や私も勉強させていただくと。医療の事故はそうした走りでありましたので、医療問題をないがしろにできないという強い意思を持ち始めてここまで来ました。そういうところからスタートしたことを委員のお言葉の中で思い出すようなことでした。国の医療再生基金があり、しかも前知事が平城遷都1300年祭のための文化施設設備基金を160億円ほどためておられたのを病院に使わせていただいたこと、それと東京の土地も、50億円ぐらいで売れて、医療の投資の元手環境が整ったというラッキーなタイミングもありました。やはり何かに進むと、助けがあるものだという思いもするわけで、それでないとこれだけの大きなプロジェクトはできないと思います。そんなことがあって、むしろ自己資本の公債費比率はよくなっているのです、そういうタイミングでできたと思っていますが、それでもこれだけ時間がかかるようなプロジェクトだったという思いがあります。

それと、奈良県庁の仕事が、プロジェクトで60ほどあり、プロジェクトでやるという

ことはチーフリーダーが決まる。それは組織の縦割りではなくて複数の組織にまたがるプロジェクトのチーフを決めるという仕組みですので、これは国も見習ってほしいぐらいですけれども、そうしたプロジェクトの責任者が一体的に考えて、資料を出してきてくれるということが進んでいる。成果があるのとそうでないのがありますけれども、総じて進んでいると。市町村と協力しようというのでやり始めたこともあります。10年前の合併で強くしようというのが多少難しい状況になって、やはり連携でしようという、世の中が変わったという思いもありますが、奈良モデルとまで言われるような仕組みになってきました。これも、そのようなことを職員がここまでやってくれたのかという感謝の思いが強いわけです。議員の皆様との会話を通じて、奈良県をよくしようという思いだけは強く持って、率先垂範でできたらというので、こういう議論は随分進んできたという思いはいたします。そのようなことをさせていただいてきたのは、ある面ラッキーであり、幸せな環境であったと思っておる次第です。

○安井委員長 ほかに質疑がないようですので、これをもって理事者に対する質疑を終わります。

それでは、採決に入ります前に当委員会に付託を受けました議案について、委員の意見を求めます。

○荻田委員 今定例会に上程されている本委員会での予算、条例、契約、諮問、報告案の全議案に賛成します。

○宮本委員 日本共産党としての付託議案に対する意見を述べます。

まず議題60号、平成26年度一般会計補正予算案については、再生可能エネルギー導入に結びつく基金の積み立てや、閉館された猿沢荘をリニューアルして、比較的安価な値段で宿泊できる施設として整備するなど、直面する県政課題に応える側面もあると思いますが、一方で賛同できない点も何点かあります。

一つは、きょうも議論したなら食と農の魅力創造国際大学校については、生徒1人につき1台のキッチンを確保するなど、さらに3億円をかけてグレードアップを図るという補正予算でした。農業大学校の本来の役割が、農業を志す方の技術向上や経営力向上などによって、奈良県農業の後継者を育成することですので、こういった役割から大きく離れるものではないかと思っております。これについては賛同するわけにはいきません。さらに、マイナンバー制度の準備に係る予算については、国民のプライバシー保護、あるいは個人情報保護が大きな課題となっているときに、巨額を投じる割にはメリットが少ないという

思いがあり、賛同できません。これらの理由により、議第60号には反対いたします。

続いて、議第66号、奈良県住民基本台帳法施行条例の一部改正する条例案については、本人確認情報を利用できる執行機関を広げるというのですが、これは統一番号によって個人情報と結合できるシステムの運用と結びついているものであり、公務員による情報漏えい事件等が頻発しているもとの改正は大変心配がつきまといまいます。また、住基ネットの導入にあたっては、システム利用の安易な拡大を図らないという国会附帯決議もなされていることから、行政事務の効率化という理由による取扱機関の拡大には賛同できません。

続いて、議第67号と議第73号、これは認定こども園設置法に基づくもので、現在各自治体で条例化が進んでいるところですが、先日の報道でも、私立幼稚園の8割が認定こども園に移行しない考えを示すという状況も生まれています。また既に運営している認定こども園も補助金が大幅に減るおそれがあることから、認定を返上する動きも強まっているということです。また、教育や保育の条件整備という点で見ても、本条例案では調理の外部委託化、あるいは3階建て以上の園舎を可能にする現在の不十分な基準をそのまま踏襲するものであり、親の就労保証、あるいは、子どもの発達を保証するという観点から、この条例案には賛同できません。

あと、議第68号ですが、これは児童福祉施設の設備及び運営の基準に関するもので、児童福祉施設の避難設備の要件を緩和するものであり、安全対策に疑問があることから賛同できません。

最後、諮第1号ですが、これは行政財産を使用する権利に関する処分に対する異議申し立てを棄却するものです。異議申し立ての内容は、労働会館エルトピアの使用許可を連合奈良のみ与えて、同じ労働組合のナショナルセンターである奈労連に与えていないという問題について、奈労連がエルトピアの使用不許可処分の取り消しを求めているものです。平成12年の奈良地方裁判所判決で労働会館の目的外使用許可の判断は平等になされるべきだとされました。その後、審査要綱が定められ、組織の構成員数や産業分類によって判断するとされました。この要綱に沿って毎年審査をして、連合奈良への貸し出しを決定しているというのですが、奈労連が情報公開制度に基づいて、審査の議事録の公開を求め、議事録は存在しないという回答で、納得できないことから、こういった問題が毎年繰り返されているものであります。この問題について、納得がいくような解決策を考へるべきだと思いますので、諮第1号には反対します。

その他の議案には全て賛成です。意見は以上です。

○上田委員 今回、本委員会に付託されました各議案で、反対の意見を個別に申されましたけれども、私どもは全て適正であると判断しております。一般会計補正予算、それから特別会計が2予算案、そして13の条例の制定・改正の議案、それから6件の契約案件の議案、いずれも適正であると思います。

よって、付託案件は全て賛成したいと思います。

なお、諮第1号について、反対の意見表明がありましたけれども、これは昨年と同趣旨の異議申し立てであり、知事の見解どおり棄却するべきものであると私どもは判断しております。以上です。

○森山委員 今回、上程されております26件全てについて賛成いたします。

○山本委員 我が会派も、上程案件には賛成いたします。

○安井委員長 それでは、これより採決を行います。

委員より議案について、賛否の意見がありましたので、まず反対意見のあった議案について、起立により採決を行います。

議第60号、議第66号、議第67号、議第68号及び議第73号について、原案どおり可決することに賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

○安井委員長 ご着席ください。起立多数であります。よって、議第60号、議第66号、議第67号、議第68号及び議第73号については、原案どおり可決することに決しました。

次に、諮第1号については、先ほど委員から、本件異議申し立てについては、知事の見解どおり、棄却すべきであるとの意見と、異議申し立ては適当であるとの2つの意見がありましたので、これについても起立により採決を行います。

当委員会の意見として、知事の見解どおり、本件異議申し立てについては、これを棄却すべきであるということに対して、賛成の方の起立を求めます。

(賛成者起立)

ご着席ください。起立多数であります。よって、諮第1号についての当委員会の意見は、本件異議申し立てについては、これを棄却すべきであるとするものといたします。

次に、残余の議案、議第61号から議第65号、議第69号から議第72号、議第74号、議第75号及び議第78号から議第83号については、一括して簡易採決により行いたいと思いますが、ご異議ございませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○安井委員長 それでは、お諮りします。以上17件の議案については、原案どおり可決することにご異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○安井委員長 ご異議がないものと認めます。よって、ただいまの17件の議案については、原案どおり可決することに決しました。

なお、報第26号から報第28号については、報告案件であり、理事者より詳細な報告を受けたこととさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

以上で議案の審査は終了いたしました。

これをもって総括審査を終わります。

次に、委員長報告についてですが、本会議で反対討論される場合は、委員長報告に反対意見を記載しないこととなっております。

日本共産党は、反対討論をされますか。

(「はい」と呼ぶ者あり)

では、委員長報告に反対意見を記載しませんので、よろしくお願いいたします。

次に、委員長報告については、正副委員長にご一任願えますか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

それでは、正副委員長一任とさせていただきます。

なお、委員長報告は、10月6日、月曜日の議会運営委員会及び本会議で、私から報告させていただきますので、ご了承のほど、よろしくお願いいたします。

去る9月25日に設置されました予算審査特別委員会は、委員各位のご支援、ご協力によりまして、滞りなく議了いたすことになりました。ここに、心から厚く御礼申し上げ、閉会の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

それでは、これで予算審査特別委員会を終了いたします。